ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

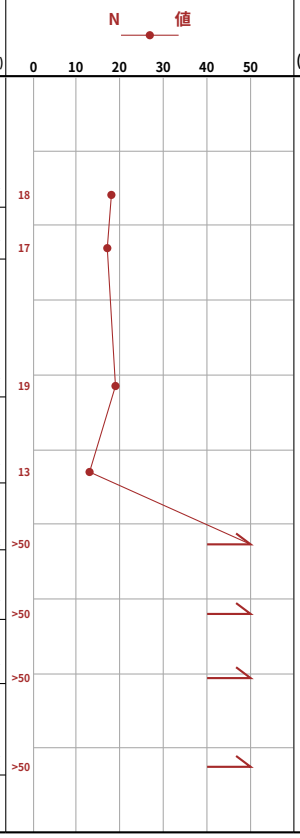
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-4	調査位置				北　緯	37 ° 06 ’ 46.8400 ”
発注機関	栃木県　大田原土木事務所			調査期間	2010-11-24 ～ 2010-11-26	東　経	140 ° 01 ’ 11.6000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	769.08 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	
総掘進長	9.00 m							試錐機		ハンマー落下用具	
								エンジン		ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
					表土 (SF)	黒			軟質なシルト系土から成り、植物根を混入する。		
1					転石・玉石混り砂礫 (GS-B)	灰	中ぐらい		φ10～30mmの亜角礫を主体にコア長5～10cm(推定φ100～300mm)の粗石を点在し、GL-1.65m以深にはコア長35cm(推定φ1000mm前後)の転石をも認める。マトリックスは中～粗砂分と少量の細粒土分から成り、礫間をルーズに充填する。		11/24 1.15
2	766.58	2.35	2.50								
3					転石・玉石混り粘土 (CH-B)	茶褐		非常に硬い	土は全体にやや固い。GL-2.5～3m間、軽石質を帯び、粘性上位である。φ5～20mmの火山礫を主体に最大φ50mm程を点在し、GL-3m付近にコア長80cm(推定φ2400mm内外)の転石を認める。GL-3.8～4.5m間、シルト質粘土状を呈す。GL-4.5m以深、スコリア及び粗粒砂分の含有が顕著で、含水・粘性共に低下する。		
4						灰					
5	763.28	3.30	5.80			暗茶褐		硬い			
6					転石・玉石混り火山灰 (VA-B)	暗褐			火山噴出物の堆積層であり、粘性土を主体に粗粒砂分を不均質に含有している。土は固結状態にある。全体に粘土化を伴うスコリアの含有が目立つ。φ5～20mmの火山礫を主体にコア長5～15cm(推定φ150～450mm程)の粗石～転石を点在し、最大ではコア長25cm(推定φ750mm前後)をも認める。		
7											
8											
9	759.73	3.55	9.35								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.45	5	6	7	18／30	18
1.75					
2.15	5	6	6	17／30	17
2.45					
4.00	6	6	7	19／30	19
4.30					
5.15	4	4	5	13／30	13
5.45					
6.20	14	36／4		50／14	>50
6.34					
7.15	16	34／2		50／12	>50
7.27					
8.00	13	37／3		50／13	>50
8.13					
9.15	18	32		50／20	>50
9.35					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						11/24
						11/25
						11/26